

すももで地方創生

県教育庁生涯学習課長

中 本 正 行



来の地域を支えていく核になる人材をいかに育てていくかが大きな課題である。

「自分のふるさとが好きだから、ここに住み、もっとよい町にしていきたい。」と思える子どもを育てるには、まずは、「子ども塾」のような場で、自分が暮らす地域の魅力を十分に味わわせることが必要である。さらに、様々な大人との出会いや交流を通して、地域の課題を知り、その解決にどのように貢献できるのかを考えさせることも大切であろう。

県教委では本年度から、中高生等が公民館を拠点に、地域課題の解決や魅力あるまちづくりを目指す企画運営する事業を始める。若者自らが、地域で活躍できる場を広げ、地元への愛着心を高めるきっかけにしたいと思っている。

地方創生に向けた人材育成には、決められたレシピアがあるわけではなく、各地域の特性を生かした取組が求められる。すももジャムをつくった子どもや公民館で活躍する若者が次代の担い手になることを大いに期待したい。



今日のプログラムは、地元特産のすももを使った料理教室である。梅雨も明けた七月の週末、調理室に集まった小学生親子三十人が、グループごとに楽しく料理に取り組む。壁には大きなレシピアが貼られ、調理台の周りでは地域の人たちが見守っている。でき上がったジャムとクレープを食べた後は、クイズを通して、使用した食材や地域との関わりについて学習する。

昨年度から始まった土曜日教育支援事業の一コマである。この町では、地域の特産品や伝統行事等の「ふるさと」を題材に、小学生に様々な体験をさせる「子ども塾」を一年を通して実施している。町内の子どもたちに、身を持って地域の良さを再発見させ、ふるさとに誇りを持つてもらおうとともに、多くの大人が運営に関わることにより、地域の教育力を高めることが狙いである。

昨年五月、日本創成会議から衝撃的な報告があった。「人口流出により、全国の半数近くの市町村は、将来消滅するおそれが高い」というものである。今後、国・地方を挙げて、地方創生に本格的に取り組むことになるが、教育の関係では、将